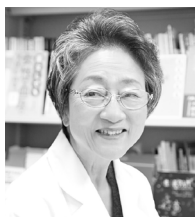


性差医療が拓いてきた女性の健康

天野 恵子

性差医学・医療とは、男女比が圧倒的にどちらかに傾いている病態、発症率はほぼ同じでも男女間で臨床的に差をみるもの、いまだ生理的・生物学的解明が男性または女性で遅れている病態、社会的な男女の地位と健康の関連などに関する研究を進め、その結果を疾病の診断、治療法、予防措置へ反映することを目的とした医療改革である。性差医学の概念は、米国における女性の医療の見直しに端を発する。1977年、米国食品・医薬品局は、1960年代のサリドマイド事件等を受け、「妊娠の可能性のある女性を薬の治験に加えることは好ましくない」というガイダンスを出した。その後、女性が薬の治験を含む臨床研究から除外される状況が10数年にわたって続き、女性生殖器および乳腺の悪性腫瘍を除くと、多くの生理医学的研究における臨床試験が対象から女性を除外し、男性をモデルとして計画され、その研究結果があたかも疾病病態が女性でも同じであるかのごとく、何の疑問もなく女性に当てはめられてきた。

1990年、米国国立衛生研究所の中に、女性の健康研究局が開設され、性差を考慮した医学、女性の医療の幕が切って落とされた。私は1999年、第47回日本心臓病学会にて、性差医学・医療の概念を日本に紹介した。2001年5月には鹿児島大学に、9月には千葉県に性差医療の実践の場として女性外来が立ち上げられた。2002年には、性差医療・医学研究会を設立し学術研究を目的とした活動を開始した。この会は、2008年に日本性差医学・医療学会となり、現在に至っている。我々の活動は、2024年10月、国立成育医療研究センター内への女性の健康総合センター（Integrated Center for Women's Health: ICWH）開設に発展し、「すべての女性が生涯にわたり健やかに生きる社会の実現」を目指した研究・開発・臨床を推進する基盤を構築し、日本の司令塔機能を果たすべく活動している。その真価が問われるのはこれからで、小さく産んで大きく育てることを目標にしている。



PROFILE

あまのけいこ：東京大学医学部医学科卒業。東京大学医学部第二内科入局。同内科助手、東京大学保健センター専門助手、講師を経て、東京水産大学保健管理センター教授。千葉県衛生研究所所長・千葉県立東金病院副院長。財団法人野中東昭会静風荘病院特別顧問～現在に至る。2002年に発足させた性差医療・医学研究会は、2008年に日本性差医学・医療学会となり、現在は理事として後継者の育成にあたっている。